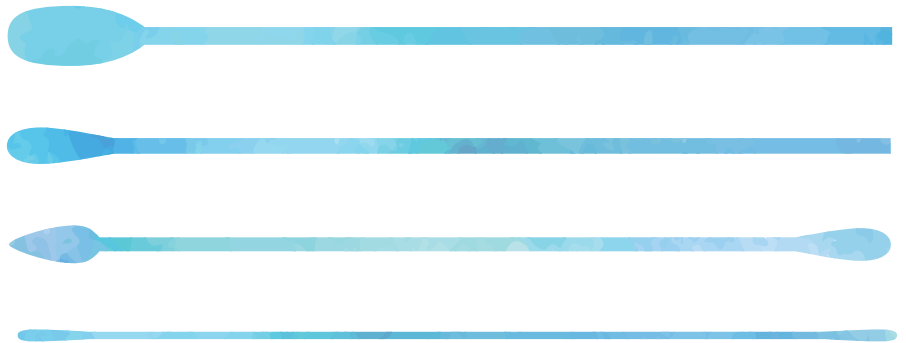
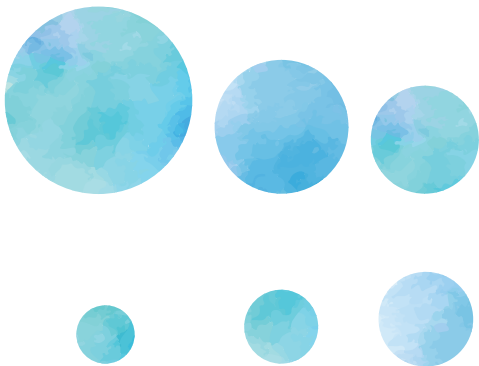
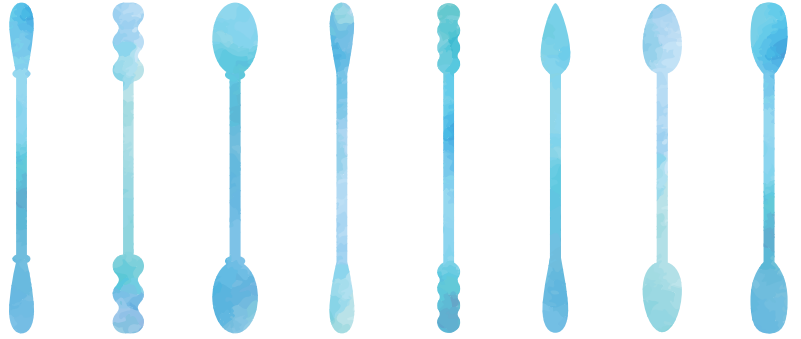




Company Profile

会社案内



理念

山洋を通して より多くの方が 喜び合える企業にしよう

■お客様に喜んでいただく ■社員に喜んでいただく ■地域・社会に喜んでいただく
この思いが原点であり、永遠の目標です。

品質方針

お客様に喜んでいただける製品づくりに、
一人ひとりが誇りと自信と責任を持って果たすこと

山洋の綿棒がお客様にとって安心できる日常となれるように
社員一人ひとりが、常に考え行動を起こすことを信念とし、
年間、約60億本もの綿棒と向き合っています。

挨拶



代表取締役会長
中谷 洋

当社は「棒に綿をつける」という製品を軸に、一般用、工業用、化粧用、医療用と様々な分野に挑戦し続け、生産本数は年間約60億本に至るまでに成長しました。

これからは更にすばやい変化が求められる時代となります。その変化に対していかに「理念・品質方針」を体現していくかが重要です。他社にはできない商品開発と技術力で、世の中のニーズに先駆けて応え、皆様に喜んで頂ける商品を作り続ける事が当社の永続的な成長と発展に繋がっていくと思っております。



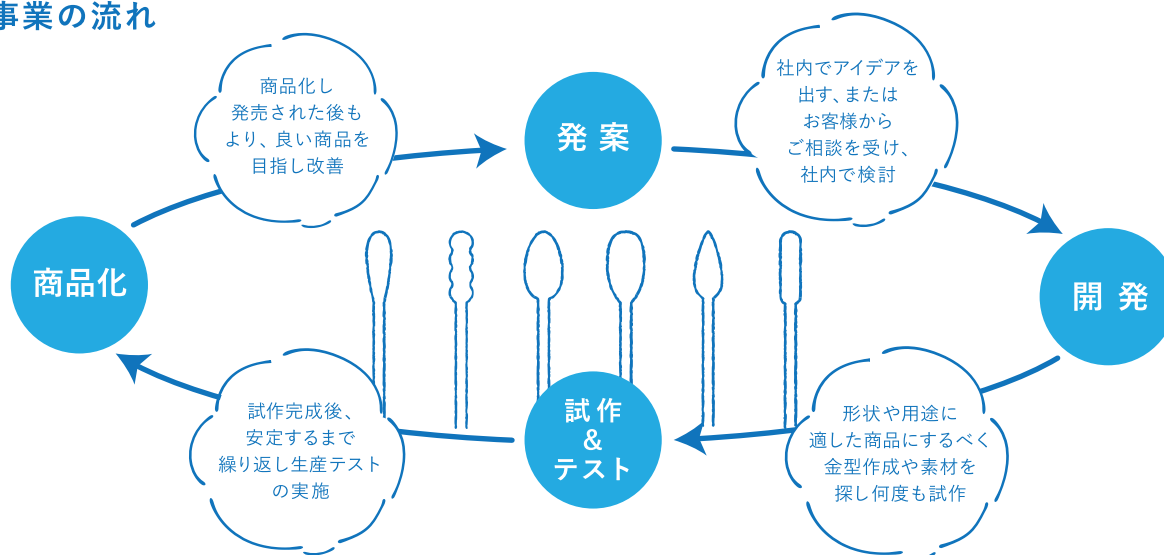
代表取締役社長
日比 努

少子高齢化に加え、中国企業の著しい成長や欧米企業のM&A等により、我々を取り巻く環境は以前にもまして厳しくなっております。そのため、創業以来58年以上培ってきた日本企業ならではの「モノづくりへのこだわり」「高品質」をさらに強化しながら、海外勢に負けない競争力を身に付けなければなりません。前述の通り、厳しい環境を耐え抜くための進化を続け、社員とその家族の幸せを追求すると同時に、お客様、取引先様のご期待にお応えできるよう精一杯努力して参ります。

事業

山洋は綿棒の生産においては、お客様からの多種多様な要望に応える確かな技術があります。液体を含浸させたり、粘着剤をまとわせた特殊なものから必要箇所に合わせた様々な形状も山洋の技術であれば可能です。

事業の流れ



体制

山洋は国内と国外、ふたつの拠点で、高品質の製品を安定供給いたします。“山洋品質”はベトナム工場でも現地のオペレータの教育の一貫として日本での研修制度を採用することで、高い品質を維持しています。



大阪府・富田林工場（本社）



ベトナム工場（SANYO VIETNAM CO.,LTD.）

歴史



こけし楊枝

1957年～1966年

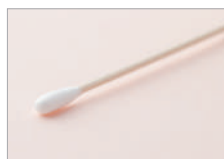
創業者の中谷文雄が現在では爪楊枝の主流の形であるこけし楊枝を開発・発売。山洋工業所を創業時に生産を終了している。



ペンチップ

1966年～1983年

1966年に爪楊枝に替わって山洋の主力商品として生産していたサインペンの先端に使用されるペンチップ。1983年に生産を終了している。



6インチ木軸綿棒

1975年

山洋で初めて生産開始した綿棒は6インチ(15.24cm)の木軸綿棒。主に医療用としてヨーロッパ向けに輸出された。



耳かき綿棒

1975年

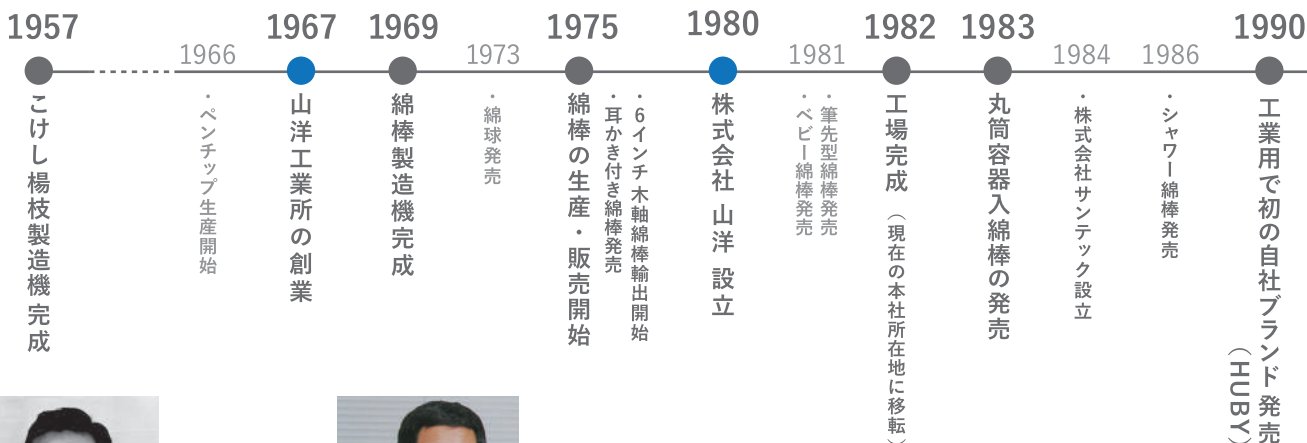
日本で広く普及していた耳かきに似せた形ができないかと試行錯誤し、出来上がった商品。



筆先型綿棒

1981年

大手化粧品メーカーの要請を受け、先端が丸くない、先の尖った綿棒の製造に成功。



創業者
中谷 文雄
(1912-1988)

◀1962年頃

1938年故郷の飛騨高山で木工製品を製作する会社を立ち上げる。爪楊枝の生産を開始し、爪楊枝生産の機械化に成功する。1956年頃、現在も主流のこけし楊枝を開発。その後、1967年、富田林市に移転。社名を【山洋工業所】に改め、経営から退く。その後は綿棒製造機や綿球製造機、耳かき付き綿棒製造機等の様々な製造機の開発に尽力した。それらの製造機で作られた製品は、現在の山洋商品の礎となっている。



会長
中谷 洋

◀1982年頃
(当時社長)

1967年4月に山洋工業所の社長に就任。1972年頃、父と盟友の有村氏が綿棒製造機、綿球製造機を完成させた事をきっかけに綿球と綿棒の製造に着手する。1980年【株式会社山洋】を設立。1983年頃、今では主流の丸筒綿棒の開発・販売。1990年NB商品の開発・販売。その後も、今までにない綿棒の開発の先頭に立ち続けた。2018年6月に株式会社山洋の会長に就任。現在も日々新しい綿棒の開発に尽力している。

山洋の由来



◀創業当時の看板

1967年4月に【中谷商店】から【山洋工業所】に社名を改めた。社名の由来は、親子で“山”と“洋”(海)が好きだった事と「山のように高く、海のように深く」という意味合いを込めて名付けた。さらに法人化し、【株式会社山洋】になった後に現在のロゴマークを作成した。このロゴマークは、太陽の光を浴び、輝ける会社になるようにとの願いを込め、太陽と山と海をイメージして作成されている。



丸筒容器での販売

1983年

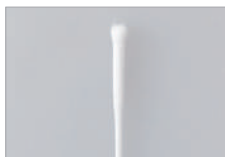
リーフパッケージが主流だった時代に、袋詰よりも見栄えがよく安定性もあることから透明なプラスチック容器に綿棒を入れ販売。
現在では丸筒での販売が主流。



工業用綿棒

1990年

電子機器、精密機器の製造時に使用される綿棒。ハイテク機器に使用されるため、サイズや脱着繊維などきめ細かい機能が求められる商品。



耳鼻科用綿棒

1997年

使い捨てになった捲綿子手巻き綿棒。看護師さんの綿卷き、後処理の手間を省くために、開発された商品。



こだわり綿棒シリーズ

2012年～

山洋のこだわりが詰まった綿棒。綿部分の使用感、軸の強度、安心設計にこだわった商品。



360°耳かき風綿棒

2017年

「気持ちいい」を追求してつくられた綿棒。しっかりとカキ取れるのに綿できているから優しい使用感の綿棒。



ミヤクミヤク綿棒

2025年

EXPO 2025 大阪・関西万博を記念した綿棒を制作。軸には39種類の大阪弁メッセージをあしらひ、社員考案のフレーズを採用した。

1992

1997

1998

2001

2005

2008

2012 2017

2018

2021

2022

2023

2024

2025

・一般用で初の自社ブランド発売（夢幸棒）

・耳鼻科用綿棒発売

・国産良品綿棒発売

・ISO9001 認証取得

・有限会社クリーソックス設立
（現・株式会社クリーソックス）

・SANYO VIETNAM CO., LTD. 設立

山洋 こだわり綿棒 発売

山洋 創業 五〇周年

・医療用綿棒発売（Dr.HUBY micro 3mm）
・360°耳かき風綿棒発売

・日比 努 代表取締役社長に就任
・中谷 洋 代表取締役会長に就任

・FSC® 認証取得（FSC-C170198）
・ISO13485 認証取得

・HOSSO（大人の細い綿棒）発売

・こだわり綿棒 紙容器 発売

・メディカル工場の設立

・綿棒カルテシリーズ 発売

・EXPO 2025 大阪・関西万博
ミヤクミヤク綿棒 発売

山洋念願のNB商品の販売

HUBY

工業用綿棒
NBブランド



山洋は約15年もの間、他社へのOEM供給がメインでNB商品の発売は山洋の悲願だった。そして遂に、1990年山洋初のNB商品として工業用綿棒の【HUBY】を発売する。

【HUBY】発売から2年後に、ようやく一般消費者用綿棒のNB商品【夢幸棒】が発売された。その後【国産良品】というブランド名に変わり夢幸棒の時には叶わなかった、ブランド展開もされ、現在も好評発売中である。

YUMEKORO

一般用綿棒
NBブランド



ISOの取得



Design and Manufacture of cotton swab for industrial use.
Medical cotton swab 100 heat



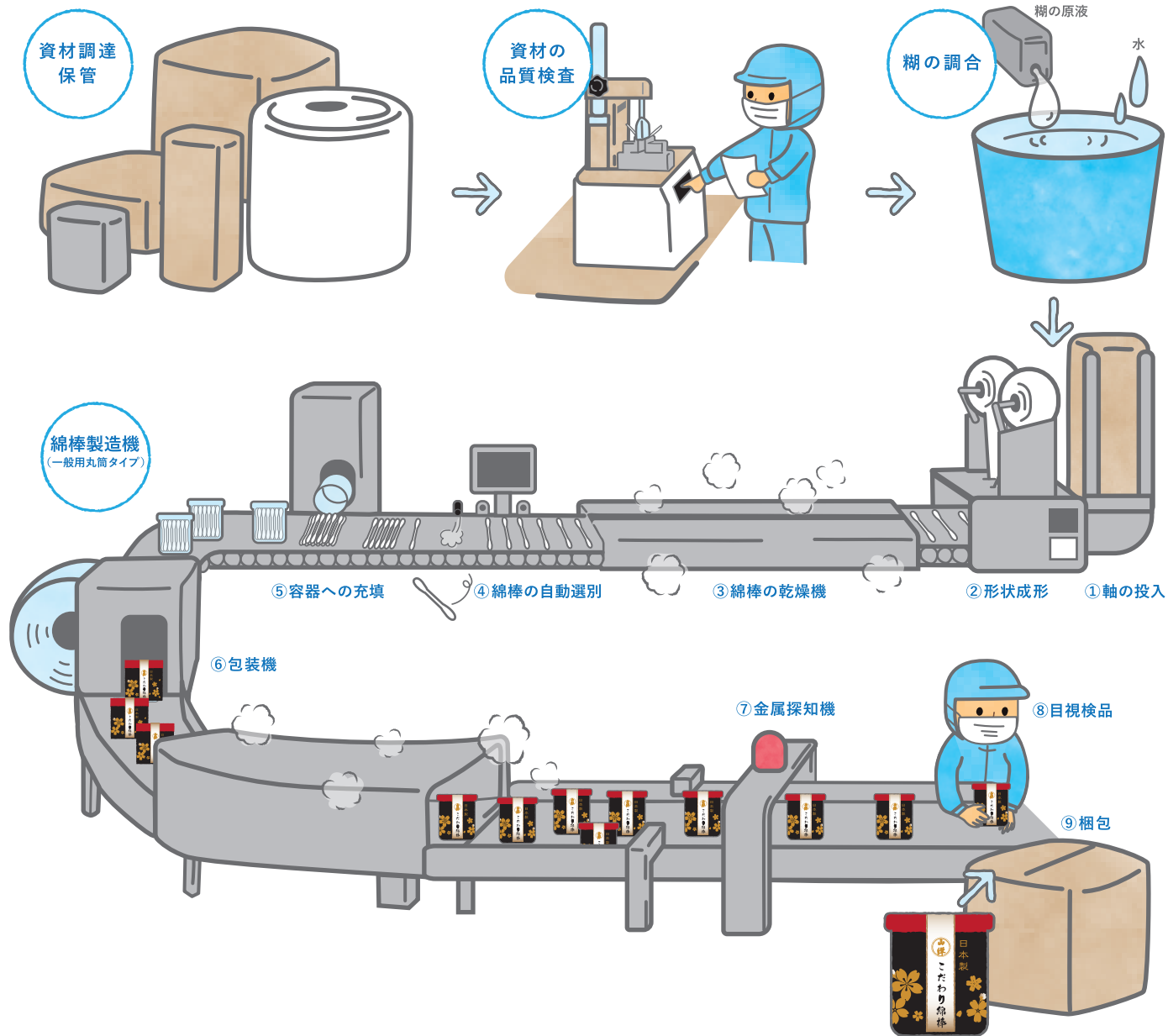
Design and manufacture of sterile applicators for medical use

1990年代に入り、売上高が増える中で山洋でも社内整備が急務になった。同時期に国際標準化機構（ISO）品質マネジメントシステム規格・ISO9000シリーズを取り入れる動きが広がっていたことから、山洋も品質マネジメントシステム規格・ISO9000シリーズを取得した。結果、社内の体制整備がスムーズになり、社員の意識改革やレベルアップにも繋がった。

その後、2017年から医療業界へ本格参入、品質管理の制度を上げるため医療機器における品質マネジメントシステムのISO13485を2021年に取得。山洋は、世界トップクラスの品質である今尚、更なる品質向上を目指し続けている。

製造
ライン

山洋の綿棒（一般用丸筒タイプ）ができるまでをイラストでご紹介。



詳細説明

もっと、詳しく知りたい“山洋の綿棒”。

資材調達 保管

山洋では、商品部が生産工程に合わせて、綿・軸・容器・包装用材料等の綿棒生産には欠かせない資材全般の調達、保管、管理をしています。

資材の 品質検査

山洋では、品質保証部が生産前に納品された資材を抜き取りでチェックしています。山洋品質を維持するための大事な工程の一つです。

糊の調合

糊の配合率で綿の風合いが大きく変わるため、山洋ではアイテム毎に生産部が配合し、製造しています。

綿棒の製造 (一般用丸筒タイプ)

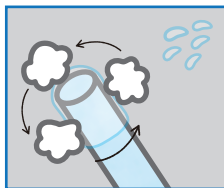
山洋の製品の大半を占める丸筒タイプの製造機を写真で補いながら左図のイラストに沿ってご紹介いたします。

① 軸の投入



まずは、紙軸を納品された箱のまま製造機に設置します。軸が吸い込まれるようにレーンの上を流れて行き、そのまま綿をつける工程に移ります。

② 形状成形



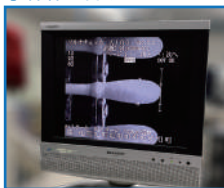
詳細は企業秘密なのですが綿を細かく砕いたものを、下糊のついた軸を回転させ巻きつけます。同時に上糊をかけながら形を成形していきます。

③ 綿棒の乾燥機



綿棒に合わせた特製のヒーターで成形されてすぐ、綿棒を乾燥させていきます。この工程で形をしっかりとキープします。

④ 綿棒の自動選別



三台の CCD カメラで流れてくる綿棒を検知し、規格に合わない綿棒は瞬時にエアで弾かれます。

⑤ 容器への充填



カメラ検知で選別を受けた良品の綿棒を充填機前に集積し、丸筒に自動充填されます。

⑥ 包装機



丸筒商品はシュリンクフィルムという包材を使い容器を密封包装しています。そのフィルムを自動カットする機械です。

⑦ 金属探知機



万が一、製品に金属類が混入している場合は、お客様の安全が守れないため、1つ1つ金属探知機を通してチェックしています。

⑧ 目視検品



包装された後、箱に入れる前の最終チェックは機械に頼らず、人の目で行っています。山洋品質の維持には必要不可欠です。

⑨ 梱包



厳しい検品後、規格内の製品のみ梱包され、一旦倉庫に保管された後、各地へ出荷されています。

※金属探知機の取り付け位置はラインによって変わります。

取扱商品

山洋で取り扱っている商品は大きく4つのカテゴリーに分かれています。

一般用綿棒

一般の家庭で使用されています。耳のお手入れ用、赤ちゃん用、メイク用、お掃除用と多種多様な使用シーンに合わせた綿棒があり、一般量販店(スーパーマーケット、ドラッグストア、ホームセンターなど)で販売されています。山洋が販売する綿棒全体の約80%を占めています。



工業用綿棒

世界の工場で使用されています。主にHDD、液晶工場でのワークの清掃に使用されます。NB製品である“HUBY”が精密機器の製造を支えています。世界的なシェアを誇り、日本国内のみならず、アジア、アメリカ、ヨーロッパなど数多くの地域でご利用頂いております。



医療用綿棒

医療の現場で使用されています。耳鼻咽喉科、産婦人科、介護などの現場で使用されています。基本的には滅菌処理を施しており、使用シーンに合わせた長い綿棒、綿部が大きい綿棒など、一般用綿棒では見えない特徴的な綿棒が多いです。



綿球

一般の家庭、医療の現場で使用されています。メイクのお手入れや、医療現場での消毒液の含浸などに使用されています。また、糊を使用していないリントレス綿球も取り扱っております。



取扱サイズ

綿球 / #10.#14.#20.#25.#30.#40
リントレス綿球 / #14.#20.#25.#30.#40

販売 地域

山洋の商品は国内工場、ベトナム工場から
世界に羽ばたいています。

家庭用綿棒、工業用綿棒を中心に、アメリカ、ヨーロッパ、中国、ベトナム、韓国、台湾、インドネシア、フィリピン、シンガポール約30の国と地域で販売されています。

特に工業用綿棒の“HUBY”は世界的なブランドとして認知されており、ハードディスク等の精密機器の製造を世界の工場で支えています。



種類

綿棒を作り続けて50年以上の山洋は
取り扱っている綿棒の形状や種類が多様多様です。

綿棒の種類（一般用綿棒より抜粋）



スタンダード



デコボコ(4つ玉)



黒(デコボコ4つ玉)



WET(デコボコ4つ玉)



粘着(たわら)



メイク



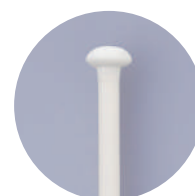
シャワー



エッグ



耳かき



至福の耳かき



こだわり/スタンダード



こだわり/デコボコ



こだわり/黒デコボコ



こだわり/シャワー



至福の耳かき/黒



ベビー / φ4.0



ベビー / たわら



ベビー / スリム



ベビー / デコボコ



ベビー / 極細

軸の種類と長さ



紙軸 3インチ

ほとんどの一般用綿棒に使用されている。

強化紙軸 3インチ

こだわりシリーズ等に使用されており、普通のものに比べ強度が高い。

印刷軸 3インチ

軸部分に模様やロゴなどを印刷した軸。ノベルティ商品によく使用されている。

細紙軸 3インチ

主にベビー用綿棒に使用される細めの軸。直径は通常の軸より約1mm細い。

PP軸 3インチ

WETタイプ等の液体を含浸させる綿棒に使用。色は水色と白の2色。

紙軸 6インチ

医療用、工業用の綿棒等に使用されている。

※ 3インチ = 76.2 mm

容器・個包装



ベトナム生産のみ

M100 W61×D61×H85 (mm)
スタンダードタイプの綿棒が約100本入る容器。ベビー綿棒等の細いタイプの綿棒容器によく用いられる。



日本生産のみ

M150 W68×D68×H83 (mm)
スタンダードタイプの綿棒が約150本入る容器。ベビー綿棒等の細いタイプの綿棒容器によく用いられる。



日本生産のみ

M200 W81×D81×H85 (mm)
スタンダードタイプの綿棒が約200本入る容器。市場で一番多く流通しているサイズ。



日本生産のみ

PS W68×D68×H85 (mm)
スタンダードタイプの綿棒が約150本入る容器。Mシリーズより透明度が高く、メイク綿棒や女性むけの商品に用いられる。



日本・ベトナム生産

MDS W69×D69×H85 (mm)
スタンダードタイプの綿棒が約150本入る容器。軸から取り出せるスライド開閉式の容器。



ベトナム生産のみ

MDL W80×D80×H85 (mm)
スタンダードタイプの綿棒が約200本入る容器。軸から取り出せるスライド開閉式の容器。



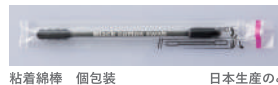
日本生産のみ

リーフ包装

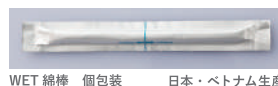
綿棒を10本程度包装しており、ホテルのアメニティグッズや他商品とのアソートセットに用いられる。



一般用綿棒 個包装 日本・ベトナム生産



粘着綿棒 個包装 日本生産のみ



WET綿棒 個包装 日本・ベトナム生産

個包装

綿棒1本1本包装しており、衛生的に携帯できる。また、WETや粘着等の容器にそのまま入れられない商品にも用いられる。



日本生産のみ

滅菌紙個包装

医療用や介護補助商品に使用される包装。